2026年10月18日（日）主日朝礼拝説教

『空き家の危険性』　井上隆晶牧師
Ⅰコリント3：10～13、16～17、ルカ11：20～26

❶【キリストが悪霊を追い出す理由】

今日は最初にイエス様が悪霊を追い出している物語からお話をします。イエス様はここで口を利けなくする悪霊を追い出して、癒されました。「**わたしが神の指で悪霊を追い出しているのであれば、神の国はあなたたちのところに来ている。**」（ルカ11：19）と語られます。悪霊がその人を支配すると、その人は悪霊の道具になります。しかしキリストが悪霊を追い出し、その人を支配すれば、その人は神の道具になるのです。キリストの方が悪霊より強いからです。イエス様は自分の指のことを「**神の指**」といわれました。神以外に悪霊を追い出すことはできません。イエス様は神ですから、その神の力によって悪霊を追い出しているのです。

イエス様の活動というのは三つ上げられます。「神の国の宣教」と、「悪霊を追い出すこと」と、「病気を癒すこと」です。私たちは聖書に慣れているので、イエス様が病気を癒すのをそんなに疑問に思いませんが、初めて聖書を読んだ方から「なぜ、イエス様は病気を癒されるのですか」と聞かれたことがあります。なぜイエス様は悪霊を追い出し、病気を癒したのでしょうか？それは病気で苦しんでいる人たちを憐れに思われたからでしょうか。それもありますが、**何よりも悪霊を追い出すのは、悪霊が神を信じることを邪魔するからです。悪霊は神から私たちを引き離すためなら天使にも偽装しますし、何でもします。神よりもこの世の方が魅力があると思わせ、神以外の偶像（この世の神、人、お金、知識、この世）の方が私たちを救ってくれるのではないかと思わせ、それを求めさせようとします。しかしそれはすべて嘘です。悪魔はいつも嘘つきだからです。**

「**この世の神（悪霊のこと）が、信じようとしない人々の心の目をくらまし、神の似姿であるキリストの栄光に関する福音の光が見えないようにしたのです。**」（Ⅱコリント4：4）悪霊が出て行けば、そこに聖霊が入るので、その人の心の中に神の国ができあがり、人は嘘から目が覚めるのです。そして聖霊は私たちにまことの神を教えてくれます。この世は自分の知恵で神を信じることができません。聖霊によらなければキリストを信じることは出来ず、神も分からないのです。

❷【恵みを無駄にする人は、ますます悪くなる】

24節以降は、悪霊が出て行った後のことが書かれています。「**汚れた霊は、人から出てゆくと、砂漠をうろつき、休む場所を探すが、見つからない。それで、『出て来たわが家に戻ろう』と言う。そして、戻ってみると、家は掃除をして、整えられていた。**」（ルカ11：24～25）**悪霊を追い出しさえすればもうそれで大丈夫なのではありません。**悪霊は人から出てゆくと、砂漠をうろつきます。砂漠とは水

のない場所、すなわち悔い改めの涙のない魂、荒れた魂を象徴しています。つまり**自分を受け入れてくれる魂を求めるのです。悪霊も人の同意を必要とするのです。鉄と磁石が引き合うように、憎しみ、疑い、恨み、敵意、嫉妬、怒り、不安、不信仰、恐れが人の心の中にあるとき、悪霊は入れるのです。**そして「わが家に戻ろう」と言って、出て行った人の中に戻ろうとします。その人の魂がまだ悪い習慣、悪い考え方が身についてしまっているからです。戻ってみるとその人の心は、掃除がされて整えられています。悪霊が出てゆくと人の心は清くなり、秩序が出来るからです。しかし空き家になっているので、自分より悪いほかの七つの霊を連れて来て、中に入り込んで、住み着きます。そうするとその人の状態は前よりもっと悪くなります。漕ぎ手のいない舟はいつまでも海を漂い、住む人のいない家は荒れ果て、目的地のない旅は放浪の旅となります。**問題は、この人の心に主人が住んでいないことにあります。悪霊が出て行った後の方が大事なのです。神が創造された本来の人に戻らなければなりません。それは聖霊の住まいとなることです。「あなたがたは、自分が神の神殿であり、神の霊が自分たちの内に住んでいることを知らないのですか。」**（Ⅰコリント 3：16）人はキリストの十字架の犠牲によって清められます。しかしそれだけではなく聖霊降臨が必用でした。神の霊に住み続けてもらう努力をしなければならないのです。これを多くのキリスト教徒はしないのです。信じたら終わり、洗礼を受けたら終わりです。

●私は 7 月の血液検査をした時に、三つくらいの項目が引っ掛かかりました。そこで食生活を改め、節制をし、運動をするようにしました。すると体重が 9 キロ落ちたので怖くなり、もっと重い病気になったのではないかと心配しました。しかし 10 月の血液検査では、すべての数値が正常値に戻り、脂肪肝も治りました。神様がわたしに健康を再び与えて下さったことを感謝をし、与えられた命と健康を神様と教会のために使おうと思いました。

人が健康を与えられ、病気が癒され、悪霊を追い出してもらう意味は、健康になって自分のしたいことをするためではなく、また悪いことをするためでもなく、与えられた体と命を神様の道具として献げ、用いてもらうためなのです。**恵みが与えられるのは当然ではありません。与えられた恵みを無駄にしたら、与えられている恵みも失いますし、もっと悪いことが身に起こるのです。**

ユダの王ヒゼキヤは主の目にかなう正しいことを行う王でしたが、重い皮膚病にかかり死にそうになりました。しかし泣いて神様に祈ったので病気は癒され、寿命が 15 年延ばされました。しかし彼は高慢になってイザヤの忠告を受け入れず**「あなたの告げる主の言葉は結構です。」**（イザヤ 39：8・口語訳）と言って、預言者の告げる神の言葉を軽んじ、聞かなかったので、バビロンに宝をすべて奪われてしまいました。彼は受けた恵みを無駄にしてしたのです。また 38 年間も病気で苦しみ、ベトザタの池で横たわっていた病人はイエス様に病を癒してもらった後、イエス様から**「あなたは良くなったのだ。もう、罪を犯してはいけない。さもないと、もっと悪いことが起こるかもしれない。」**（ヨハネ 5：14）と警告され

たのに、イエス様から去ってユダヤ人の側につきました。そこでイエス様は迫害を受けるようになりました。彼も癒された恵みを無駄にしたのです。神の恵みを軽んじる者は、もっと苦しい罰を受けることになります。そうでなければ悔い改めないからです。

❸【神に向かってまっ直ぐに生きる】

相田みつおさんがこんなことを書いています。

●「**一寸千貫**」むかし大工さんから聞いたことばです。一寸とは 3.3 センチのことです。一寸角の細い柱でも、千貫（3750 キロ）の重みに耐えるというのです。但し、まっ直ぐならば…。人間の生きる基本姿勢は、まっ直ぐなほど強いということを細い柱にたとえて言いたかったわけです。…その反対、三倍五倍の太さがあっても、斜めに使ったり、くの字に曲がっていたら長期間の重みに耐えられず、折れてしまうということです。坐禅では坐相といって、座る姿勢をやかましくいわれます。坐相の相は、姿、形のことです。座った形は腰から頭のてっぺんまでまっ直ぐになっていることが一番いいんです。まっ直ぐだと疲れず、息も乱れず、長い時間の坐禅に耐えられるんです。…生きる基本姿勢を正しく保つということは、あっち向いたり、こっち向いたり、フラフラしないことです。

いくら健康が与えられても、この世的な計算に長け、頭が良くて、いろんな能力があったとしても、つまり柱で譬えるなら三倍五倍の太さがあっても、**神様に向かう心と生活がまっ直ぐでないならば、その人は必ず折れるのです。人間にとっての基本姿勢とは、神を自分の人生の中心に置き、神の国と神に向かって生きることだからです。**

皆さんの生き方はまっ直ぐですか？フラフラしていませんか？今日は神に聞き、明日はこの世に聞き、今日は気分が向いたから教会の祈祷に行き、明日は気分が向かないから教会の祈祷に行かないでは、フラフラした信仰生活なのです。いつになったら生き方が定まるのでしょうか。チェスタトンが言っています。「**神を信じないと、何でも信じないと思うかもしれないがそれは逆であって、何でも信じるようになる**」と。キリストを主人としない人は、誰でも主人にしてしまうのです。礼拝でも祈祷でも奉仕でも献金でも、人は自分が決めたようにします。そして最初にフラフラと決めた人は、それが悪い習慣になり、人生が決まるのです。神の国の生活習慣をしっかり身につけた人は、神の国で豊かな報いを受けるでしょう。詩編の言葉を思い出します。「**主の教えを愛し、その教えを昼も夜も口ずさむ人。その人は流れのほとりに植えられた木。ときが巡り来れば実を結び、葉もしおれることはない。その人のすることはすべて、繁栄をもたらす。**」（詩編 1：2～3）どうかキリストの言葉をまっ直ぐに信じ、神の国に向かうまっ直ぐな信仰生活の習慣を身に着けたいと思います。